
どうやら俺は転生できるらしい。

kakaze

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

どうやら俺は転生できるらしい。

【Zマーク】

Z1890Z

【作者名】

kakaze

【あらすじ】

俺はいつも通り過ごしていて、たまたま早く起きただけだったんだがな。いつの間にかに転生とかな…夢じゃないとかりえんだが、現実だ。

初投稿で文法「こちやんこちやん」です。あまり文才がないので嫌な人は来ないほうがいいです。それでもいい人は、生暖かい目で読んでいただけだと思います。

いきなりの転生（前書き）

初投稿です。生暖かく見守ってもらえたなら嬉しいです。
感想、アドバイスなどをもらえれば幸いです。

これなりの転生

俺の名前は風霧進かざきりすすむだ。高校生だ。ただ、顔面が酷い。そのせいで学校でいじめを受けている。まあいつものことさ。バスで学校に通っている。現在もバス待ちだ。俺はいつもより少し早くに学校に行こうとしていた。いつもはもっと遅いが今日は早く起きてしまった。「今日も天氣がいいなあ……」バスがやっときた。何故か俺の体に……え？

……なんだこりは。なんか密室っぽいが……ん？目の前によく見ると変な奴がいる。男っぽいが、何かが違うな。

????「変な奴とは失礼な……一応神だぞ？」

うわ……心読んできた……

神「当たり前だ神だもの。」

ふむ神とな……これは……転生フラグ！！

神「まあそつしてやるが……いい加減心で話すのやめる。」

進「何故に？」

神「面倒だ」

進「……おく」

神「そうこうやお前の名前聞いていないな。」

進「ああそうだな…俺の名前は風霧進だ。」

なんか厨二病っぽいとかね…いや何でもない

神「そうか…じゃあ進お前自分が死んでいるのは分かつていいな?」

進「は?死んでたの?俺?夢じゃないの?」

こりやたまげたな…

神「ハア…だから神って言つても驚かないのか…」

進「まじか…今まで夢かと思つてふざけていたのに…」

神「まあ落ち着けその、なんだ、うん何か俺がね、人の姿でバス運転してたらさ、ハンドル操作間違えてね…正直すまんかった。」

進「…まああそこでの生活はあまり楽しくなかつたからいいかな。」

いじめとかいじめとか…

神「悲しいな…とつあえず転生させてやる。」

上から目線かわらずか。なんだかなあ…

進「んでどこの?」

はつきり言つて結構気になる。

神「ん~とだな...」「なんかどうだ?」

ペラペラ...

紙使うのか。もっとテレパシーみたいなかんじかと思つたのに。どれど~え~と 多種族あり 魔物あり ギルドなどもあり。などなどetc...

進「アバウトすぎないか?」

本当にetcしか書いてないんだよな...

神「調べんのがめんどうだつたんだ」

ヒツモシングル!過ぎる...

進「う~んといひで... チート能力ありか? 神よ。」

ふふつオンライン小説でもよくあることだからなあ無こと困る...わけでもないがなあ...

進「ありだが... そういうものは普通いつもが言ひんじゃないのか。」

あれ?なんかあきれてる?

進「別にいいだらうぢやでも。」

神「チート能力は何にするんだ進。」

………… セウだ。

進「なんでも武器を出せるよ！」してくれば、「まて」なんだ？」

神「能力は一つのみだ。」

チツ

進「じゃあなんでも武器をだせ……なんでも出せるよ！」

神「なぜかえたし。」

進「まあいいから神のひろおおおーお心で許して。」

神「そつかよ。」

進「あとせなんでも出せる能力さ、9歳まで使えなくしてくれ。」

神「…分かった。記憶を残して転生だよな。」

進「あ、あと転生した後9年間記憶封印してくれ。」

神「面倒だなあ…」

進「頼む」

神「分かつたよ…」

ものわかりがいいね！

神「余計なお世話だ。」

なぜ読んだし

神「顔だ顔。」

なるほど

神「それじゃあ転生させの進。来世でもがんばれよ。」

進「ああ。じゃあな。」

神「ふう…疲れた…」

神「あ、いいわ…あ～あ…送つちまつたよ…」
神の苦労は絶えない。

こわなつの転生（後書き）

あまつりあつこ感想などを書かれたら少しむかしもせません。

12月15日神か主人公か分からんと言われたので、つけました。

9号... 15田（前書き）

2話です。

あまつよく書かていませんね。がんばります...

9年と5日

9年経つた。いや、正確には9年と5日だ。ある程度ここのことが分かつてきた。が、その前に今俺は大変な危機に遭遇している。
…どうしてこうなった。orz

5日前

記憶が戻つて良かった。あの神なんか適当だつたからな……えと今は午前10時か遅いなつてえ？あれ？文字読めないと思つたら読めた。ああ9歳までの出来事や習つたことも憶えていたのか。理解。さて、自分はどんなスペックかね？

名前は、フィシー・オル・カン
貴族のようなもの。
まあいいかなんか貴族っぽいてか

運動することができま

勉強
読み書き抜群。

魔法 初級のライトすらできない……てか魔法あんのかよ……

これ
は
び
み
よ
う
だ

魔法使いたかつた。これしかもこの世界魔法の才で成績が決まるようだ。なのでここではつまり貴族みたいなの中でも落ちこぼれか旅に出るにはうつてつけだな。早く行きさえ

うーんまあがんばれ俺。

あとは人間関係か……

「うわっ」

つい口に出てしまつた。どうやらこの体相当モテるようだ。なにせ1日10回は告白をされている。しかし、付き合つた人はいないようだ。無口だったらしくそこを「カワイイ~」などとすりよつてくるらしい。ふふつなかなかやるな……しかし振る!!みんな振る!!女恐怖症の俺にそんなの押し付けられたらひとたまりも無い。振つてやるぜ! みなぎつてきたw

「なんですよ!」

- - - - - 現在 - - - - -

「うるせえな。

「いい加減に諦めろ!」

現状を整理しよう今俺は、告白を断つている……5日連続で……理由はこう。「どうしても付き合いたい」「運命の赤い糸よ!」などなどその他頭の痛くなる言葉。夕方になり、「明日も来るよ」と言う奴をうやつたく思いながら返答をしている。ここつはコース・ジャン・クドと叫びらしい。

貴族みたいなのだ。こんなのが同じ貴族みたいなもののが嫌過ぎる。この世界大丈夫か?

「ねえ聞いてるの？」

「あ？」

「どうやら現状整理の最中になんか言つてたみたいだ。

「今日はもう遅いから帰るけど、明日も来るからねーー！」

「ふう…今日も逃げ切ったか…危ないな…それにしても今日は早めに帰ったな…嫌な予感しかしねえ…」

9年…と5日（後書き）

会話があまり無いので短いです。すいません。

主人公が能力を忘れているのは、ある複線があると考えたり考えな
かつたり…

見てくださつている皆さんありがとうございます。

感想、アドバイスがあればどしどし受け付けます。よろしくお願ひ
します。

夢の中文（複数形）

誤字、脱字があつまいたら、報告してほしいです。

夢の中で

……あれ？俺あの後帰つて母と父に少しばかり叱られて……そういえば何故叱られたのだ？まあいい。んで飯食つて寝たはず……それなにこどうして高原にいるんだ？

「それはまだ」「うわっ」「驚くことでもなことだろ？」「

後ろに神がいた。少しばかり驚いた。

「扱いが酷いぞ進。いや、フイシー。」

「びつかにしてほしい。

「といひで名前がフイシーなのか？」

「知らなかつたのか？」

何だその顔は。

「はあ……まずフイシーが名前。オルがえーと……ミドルネームみたいなのだ。まあ実際にはお前の言つところの貴族の証みたいなやつだ。カンは名字。分かつたか？」

「なるほど分からん。」

「言つだけ無駄だな。お前の夢から覚めたら元に戻しある古びた本に「起動」と書いてくれそんなかにある程度のことが詰まっているだ。」

引き出しに入っている訳を出し入れしている……よし憶えた。

「あとお前の能力少しきラッターをかけさせてもらひたぞ。」

「まじか」

「そのことも本に入っているよく読めよ。」

メンドクサイなあ

「そろそろ帰る。お前現在ただもてるドリ息子つてとこだわ。しかももてるを捨てるから本当にただのドリ息子だ。何とか体鍛えたりして魔法でも何でもできるようにならないとまあこいぞ?」

「へーへー分かりましたよ。」

「じゅあな」

え? うん、#.....

「ふあああ

あのやうひ植ぬなめなどへがつやだな。かくと、訳を出しが開けますかな。

おー……どうゆうひじだ。本に向かって「起動」と書いてみたらアイ
○シドなるものが出てきたぞ。デコレーションが酷いな。星とかい
っぱいついてやがる。とりあえず剥がすか。
……

電源のつけ方俺知らんかった…… o r n

夢の中 (後書き)

なかなか思い通りに進みません。

説明……奴が来たー！（前書き）

ずいぶん長くなつた気がします。

誤字ががあつたりしましたら、報告よろしくお願いします。

説明……奴が来たーー！

……「ヤフウウウウウウ……電源はーーたあああーー！」

格闘する」と数十分。よひやくへつた。もつらしどぶつ壊すといだつた。

「やつとつせたか馬鹿め。」

「アイなんぢやらのつけ方は知らん。」

てか神いつのまこいたんだ。

「アイなんぢやらひて……お前輩へのも嫌か」

「あとこれに説明入つているから勝手に読んで。」

「分かつた。」

「それじゃあこつかまた会おつ。」

「また会つことになんのかよ……」

「わよなうだ。」

やつ言つて神は帰つていつた。

あ、名前聞いてねえ。まあいいか

「え？…あ、あつた。」

能力の使用制限について。

1、出せる物の1個の最大の重さは600？。

2、それ以外のこの世界の生態に悪影響を及ぼす物は出せない。

3、出した物は自身が伸ばそうと思わないと1日で消滅する。

4、生物は出せない。

最後に、能力を全開にしたい場合、神に許可をもらつことで全開にできるが、4と2は1時間で消滅する。

「ずいぶん規制かかってんな。」

「でも、このくらいじゃないとな。」

次は、世界について。

この世界の名はヴァルハード。厨一病かかってんなと思ったが無視。

ここでは、奴隸 農民 商人 下級貴族 中級貴族 上級貴族 王族の順番で成り立っている。…らしい。なんせこの体箱入り息子（笑）だからな。ここのことぐらいしか知らないし。学校にすら行ってないぜ。

えと、あとほ…種族か wktk だな。

ひ・み・つ(はあと)

..... 二三三四三四三四三四三四三四三四三四

あの神やつやがつたな今度会つたら必ずしも仕合へやるよー。

ん… いのへりいか。

やつこや両親にひこて言ひてなかつた。

名前は、父がファジー・オル・カン。
ファザーとか関係ないからな。

母がハミー・オル・カン。

とっても優しい家族。

そつこやそろそろ奴が来る」
やじや…

「ンンン…」「んんんんん…」

くあ わせだ らふ と ごう うん…!
き、来やがつたあああああ…!
嫌な予感がビンビンするつひひひひ…!

「はいはい」

開けるな母よ…!

「お邪魔しま～す」

「何か無いかな何か無いかな」 デラのモンみたいな感じで喰いつくる

「テツテレ～じゃない！」

「透明マント…」

できた！てか本当に何でもアリだなこれ。

「あれ？ いないの？ なんだあ隙を見て『ハーモニーピア』

聞こえんかったが隙を作らないよ」こしぬければ……

名案思いついた！ 親説得して少し修行と名の家出をしよう。 決
まつたら即行動。

実は自分の性能を確かめたいからだけど、奴は9歳のくせにしつこ
いからな。

あにつみたいにな……

説明……奴が来たー！（後書き）

感想やいつしたらいなびのアドバイス等があればぜひお願ひします。

12月13日 ミスがあつたので修正。

15までお預けを…（前書き）

今日は少し調子のついて早めに投稿しました。

誤字脱字がありましたら、報告願います。

15までお預けを！！

さて、突然だが報告する「」ことがある。俺は15歳まで旅に出られないと！

つまりだ母親曰く「あなたは貴族なのよ！しかも9歳！ありえないわ！」と

父曰く「行つてもかまわんが、まだ早い。人攫いに攫われるかもしれないからな。」

だそうな。ザ・正論。それまで何していようかね。

とつあえず散歩しよう。

「……どうしてこうなった。」

何が起こったか、それはだな…

1、歩いていた。

2、いきなり奴が出てきた。

3、現在。

「？ 何のこと？」

「……」

うぜえ……

こうなつたら……

「え? どこ行ったの? ねえ? フィシー?」

俺の名を呼ぶな。ちなみに今は透明マントをつけている。見えないとかざまあww

「んもう一せっかく見つけたのに……」

スタスター……

「行つたか。」

散歩は危険だ。てか何故あいつ領地に入つてきてやがるんだ? 気をつけなくては。

と言ひわけで鍛錬しましょ。

「まあ、どうへらり出せるかだな。」

ステ ス迷彩OK。
ビコ もドアダメ。
M4A1 ダメ。
ナイフOK。

何じゃこりゃ。

ああそろかここで ドアは時空に負担が掛かり、M4A1は残弾がマガジンに入っている場合、環境破壊に繋がるからか……

少年改良中……

「できた！」

どこのアハ無理。まあ仕方ないね。後々考えよう。

M4A1は何と言つたか、質量のある残像的な感じで撃つて当たつたら消える。しかし、質量はあるので貫いたりもできるらしい。神曰く「お前想像した物も作れるぞ想像力次第だがな。」アイなんちやらに容れとけよ。あれか、面倒か死なせたくせに上から目線?でもかも面倒臭がり屋か、畜生…

気を取り直してやつていこう。

訓練開始だ!!

ダダッダダダダダカチャツカチャカチャガチャ…ダダダダダッダダ
ダ……

これは予想外。本気出したら少しも銃口ずらさないように全速疾走
できるwww
神、さつき「めん。ただこれ強すぎじゃね？」

「大丈夫だ、問題ない。」

「ぼふうう」

「出てきやがった！」

「相変わらずひどい。」

「サーセンwww」

「じゃがんばれよ。」

「何しに来たんだ？」

「様子見。」

「しっかり働けよ。」

「お前もな。」

帰つていったか……ふう。さて再開するか。

15までお預けを…（後書き）

次ぐりには15歳までキングクリムゾンしたいなあ……

感想やアドバイスがあれば下さい。

15歳になつて……（前書き）

やつと本編っぽいのに入れます。地味に長かったw
誤字脱字がありましたら、報告をお願いします。

15歳になつて……

さて、またいきなりだが15歳の誕生日を迎えた。のだが、何てことだらうか目の前には「ゴザオズ」と言つまゝ、なんと言つか、でつかいムカデみたいなのと対峙している。数?え?...約100体。すぐ終わらせるか。

M4A1を出してと…

「うおおおおりやあああああ

乱射しまくる。弾数はずつとマガジンの中で作りっぱなしだ。6年やつてきたからそこ慣れている。弾はやつぱり出しっぱなしだと環境に悪いと思い、当たったとき以外は地面に着いたら消えるよう想像している。俺の能力は想像力次第で強くも弱くもなれる。ミリオタ……とまではいかなくともそれなりに銃器には詳しいので想像しやすい。弾の想像も6年でなれたものだ。

「ふう……終わった。」

まあ声を出さなくともできるが、なんかその方がいいと想つ。

「さて帰るか。帰つたらもつと面倒なるかな?」

15歳。つまりそれは俺が旅立つ歳である。奴^{ゴース}にも伝えたら「私も行く」と言いはじめたのでとりあえず15歳まで待つて、それから決めてくれと言つている。ん、話がずれたな。つまり15の誕生日は奴^{ゴース}の決断の日。そして、両親がいろいろと用意していくそなけつこう大切な日である。

何故そんな日にでかいムカデと殺りあつていたかと言つてだな、はつきり言おう。散歩してて襲われた。それがムカデ×1。そこから仲間が来て100になつた。それだけだ。まあ良い肩慣らしにはなつたので良しだよ。

そだ。あいつらに見つからないようにしないと。あいつらは数が多く、俺にとって何より対処しがたいからな…

なに言つてるか分からんと思つ。少し説明する。

俺は歳をとるにつれてどんどんイケメソになつていつた。自分が憎く感じた。ブサイクのほうがまだ活動しやすかつたのに…でも現実は違つた。どんどん成長することに追つかけが増えてきた。この歳になるとありえないほど精密な魔法を放つて確実に捕らえようとする女まででてきた。この前なんて刃物をもつて真っ向から向かってきた。正直生きた心地がしなかつた…

と言う訳でステルス迷彩を作る。能力も使えるようになつてきたのでじつゆうのも作れるようになつた。おk消えた。帰るぞ。

「ただいま～」

なんと今日はあいつらがでてこなかつたな。ラッキー……あ?

「「「おかれりなさいませ。」「」」

「は？え？なぜ君たちがここにいるの？」

「「「今日は誕生会および出発会だと聞いたので。」「」」

「ぬよ。これはまどかのことだ？」

「ええと……その……教えてやった……」

「酷いや……」

O R N

「まあいいじゃないか賑やかなほうが。」

そつかい。

「さあレッシ・パアアアアリイイイイだあああ」

なぜそれを知つていい。てか人格壊れたか？父よ。

そうして夜は更けていった……

そういうえば奴^{ユース}来てなかつたな。明日に来るよう言つたしな。奴^{ユース}は来るか？いや、最後になるかもしれんし行かないのなら、ユースと呼んでやるわ。

まあ、一緒に行きたいといつても呼んでやるか。べ、別にツンデレじゃないんだからな！！なんてね。

実は女嫌いではないんだ。ただ嫌いなタイプがあるだけなんだが、それがほぼすべての女に当てはまる。まずは、金目当てで近づく女。そして、地位目当ての女。俺は前世でも顔以外は少しばかりあつたので、それなりに中学はモテた。俺も恋人を作つた。前世での最初で最後の彼女だった。彼女はやはり金狙いだつた。甘い言葉にさそわれて気が付いたらこずかいがパア。それならよかつたが、高級なバッグなどをほしがつた。それを断ると「じゃあ別れよう」だ。今になつたらおかしいと気が付かないほうがおかしいと思える。ここまできたら分かるだろ？つまりユースが来たら、そいつの気持ちは本物だと言つことだ。そうなら俺はその気持ちを真っ向から受け止めようと思つ。……ふふつ明日が楽しみだな。

そうしてフィシーは眠りについた。

15歳になつて……（後書き）

なんかいい感じのよ'うな……何故このよ'うにしたか、それはタグの恋
愛が意味を成さないからです……恋愛っては消させてもいいますよ w
w
感想などあればお願ひします。

あれ? これ、 テジヤヴ? (前書き)

すいません。入れたかった話なので入れさせてもらいました。

あれ? これ、 テジャヴ?

「 より。 久しぶりだな。」

「 いつぞやの…!」

「 こつぞやの…! ジャネエヨミセツカく来てやつたの!」。

「 何か用事か?」

「 ああ。 少しばかりますい。 主に神としての立場が。」

「 はあ? お前それ自業自得で自分で解決したから俺の件じゃないんじやないのか?」

「 セウルなるとこなんだが、 「 ほかの神がその少年を助けた意味は? 」
とか聞いてきてな。 「 魔王送り込んでそれ倒せたらその罪はなかつ
たことにしてやる。 」 だと。」

「 つまりほかの神が送った魔王なるものを倒せと。」

「 セウルだ。 どうか頼めないだろ? 」

「 そう言われてもな… 魔王だろ?」

「 セウルだ。 こちらもやばいのでそれなりの協力はしようと思つ。 な
にせあつとは最強クラスの魔王だからな。」

「 鬼畜だなあ。」

「ずいぶん冷静だな？」

「今のおまじや勝てないんだろ?」

「…ああ。いくらなんでも出せても体が追いつかないからな。」

「なら身体能力の底上げをしてくれ。」

「…それだけなのか?」

「ああ。」

「ふふつ良かつた。もつと多くの事を突きつけてくると思ったぞ。
まあ今の体じゃ無理だがな。」

「えいわい」とだ?」

「お前の転生のためと能力。そして魔王が出てきた」とこの世界への影響を抑えるために力を使つたからな。悪いが少し眠る必要がある。能力をやつたらしばらく会える。すまない。」

「気にするな。それで十分だ。ゆづくつ休め。」

「実はいい奴だなお前。じゃあ言葉に甘えて……」

意識が消えていく中、そんな言葉が聞こえた気がした……

朝起きたら

「世界を救わなきゃいけないのかねえ」

なんてつぶやいてしまったのは仕方ないと黙りつい。

あれ? これ、 テジャヴ? (後書き)

神は眠りについたのだ。

すいませんただの我慢でした。

感想などあればお願ひします。

旅立ち（前書き）

一回書いたのぜんぶ消えたorz

旅立ち

……準備完了。といつてもほとんど何もないけど。

コンコン

！

「いよいよ終わったよ。」

「分かった。今行く。」

「それじゃ、行つてやるよ。」

「行つてらつしゃい。必ず帰つてきなさいよ。」

「ああ……行つてこい！」

ガチャ バタン

「よし！ いくかコース！」

「え？ 今なんて……」

「いや、だからいくかコースつて……」

「ひ、久しぶりにコースつて言われた！ コースつて！」

「そんなに嬉しいか？」

「だつて今までお前とかだつたから！」

「そうかい。」

「つゆうのも悪くはない。コースが好意を寄せているなら、それを受け止めてやるつじやないか。本気ならね。」

「…… // /」

「ん？ ビーフした？」

「本……当?」

「何が？ その好意とか……」

「聞いていたのかてか口に出てたのか。」

「うふ…」

「嘘言つても意味ないじゃないか。」

「やつた……」

小さい声で聞こえなかつたが、まあのち分かるだろ？。

「ほり惚けてないでこぐれー！」

「あ、うん」

ビハーハリウなつた。

歩いて数分。盗賊さんがいた。

「おいお前。金と女置いていけ。」

……あまりにテンプレすぎて笑えない。

「うん。それ、無理。」

とりあえずナイフだ。ゴースに見えないよつに殺る。

ザヒュ…

ブシヤアアアアアア！

嘘…首落ちたぞ…！…そんなに俺のナイフの切れ味が良いわけがない！

ん？そつこやこの体勢…抱きついてね？

「はふ～」

「ゴース？大丈夫か？」

「よくもやつてくれたなあ」

あ、上のやつ俺じゃなく盗賊B。

「ひつね」からか嗅ぎつけてきたらしい。

「野郎共！やれえ！！」

ワーワー！！

数30。何だナイフでおkジャン。

ショッ！ザツ！ザヒコ！ジャヒコ！

大変上手に殺りました

「うわ～グロいな～」

みんな首と体が離れてる。これはグロイ。

一回場所を移すか。

「何故氣絶したんだ？」

コースの顔が赤くなつていいく。なにがあつたし。

「だつてフイシーがいきなり抱きつくから…」

「それはすまんかった。」

「いやいこよ。……もつとしてくれてもブシブシ」

「お~い帰つて!~い!

「はー..」「めん。」

「そろそろ行こう。場所は決まつてないけど。」

「うん。」

旅立ち（後書き）

1回消えたときは頭が真っ白になりました。

2連投するものじゃないなと思いました。懲りなくやりますが。

もう一つ、結構仲いこみな……もう結婚しよう。

末永く幸せに爆発しろ！

感想などがあればください。

次の町は... (前書き)

アクセス5000超えたwwwwwwwwwwww

ありがとうございます!!

次の町は…

「 よくも俺の子分をやつてくれたなあ …」

説明しよつー。親玉が首チヨンパの子分見つけ。しばらくして俺たち
発見。キレる。以上。

「 なんかしたつけ? ねえフイシーなんかしたの?」

「 ちよつと奴の子分がやつってきたんでボ「ボ」！」。

「 ふ～ん。」

少しほ驚け w

「 なにぶつぶつ言つてやがる…野郎共かかれい！」

今氣がついた。こいつおそれく副親分みたいな奴だったのか。親分
死体があつたから自分がなつたてな感じだろうな。理由? やれえだ
と殺せみたいな感じするけど、あいつかかれえだつたし声裏返つて
たから。

「 あぶなー。」

いきなり剣振つてるとかあつえねえ。ビリの不良… て不良か。
ひとつあえずナイフで応戦… あるとでも思つたか? あ、でもコース見
てるしなあ。応戦しておこひ。

ガキイーン!

「小僧シネエ！」

「だがこそ」ドガアン！！

—なんぞ！？

そこにはすぐ黒いオーラを出しながら魔法詠唱しているユースがいた。こええ…

なにせ二でしるのかな?怒るよ?」

怒ってるじゃん！一発の魔力が高いよ！？

声裏返してしかも囁むておもひにし

卷之三

二二二

よく私の

- 구-즈? 구----즈! !

バッ！な

「血とか肉とか見たくなかつたら田舎へで…。」

「え？ う、うん。」

「よし……ナア アイフー アンドオオ、ナア アイフー！」

ナイフだけじゃんかと思つだろ？ 片方だけ血みどりの「あの」ナイフなんだよ。盗賊を殺した、ね。

「こきがつてんじやねエエー！」

「お前がなあ……」

スパーーン！

……スパーーン、スパーーン、スパーーン

あり？ もしかして斬ると言つ感情が強すぎて想像に影響したのか？
ほとんどの首とんでつたぞ。
まあ新しく能力の事を知れたとゆうついで。

「ひ、ひえつ……」

「た、退却！！」

逃げていく。逃がさんよ？ また来るんだろ？ 逃がしたら。
投げナイフだな。

シユー・シユー・シユー…………ザザザシユー！

おおおー！ さすが身体能力底上げー投げたことじりつまつ心の臓に的
確にあたる！

あ、コース忘れてた。

「気持ち悪くても良いなら田あけてもいいぞ。」

「…うん。 ……うひ…」

「大丈夫か？吐きたいならついて来いー血の臭いが来ないとひまで行くぞ！」

「わ、分かったよ……うひ…」

「よし、こぐれ…」

「すつきつしたか？」

「ふう…ありがと…でもまだ気持ち悪いよ。」

「分かつた。しばらくしたら行こう。」

地図地図つと。確か……分からん。
誰んだか？やべえ！

「ひつと待つてね。」

「それまことによ……何か地図ない？」

「わのまわかわーーー。」

「まさか……」

「あ。」

「えりのへんじー。」

「よし、行こう。」

「うさ。」

「あなたがこなるか？？」

「無いんだね？」

「はい……その通りで、『ゼロ』です。」

「はあ……やつぱり。じゃあここから近い町に行こうっ！」

「どう？」

「レバース。」

「うわ……悪徳商人が居るとかよ……」

「大丈夫だよ。あとギルド行くんでしょ？じゃあ尚更レバースだよ。」

「仕方ない。レバースに行くか……」

「うん！」

「何事もなればいいのだが……」

次の町は……（後書き）

ユースは魔法を使えます。主人公は少しばかり気が狂つて……いないんですが、基本的には近距離と中距離において、格下だと思った奴に対してはナイフしか使いません。まあ、ナイフのほうが想像しやすいですね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1890z/>

どうやら俺は転生できるらしい。

2011年12月17日19時51分発行